

◆ 11ヶ月のブラジル生活を振り返って

富山のみなさんこんにちは。4月から始まった JICA 日系社会青年ボランティアとしての 11ヶ月間の活動が終了しました。「新しいことに挑戦したい」という気持ちから応募したこの活動でしたが、振り返って見ると教員としてそして 1 人の人間として多くのことを学び成長することができた日々であったように思います。

まずは、「文化の違いに対する捉え方」です。ブラジルに来た当初はいくら日系社会といっても、日本とは違う文化に戸惑いを隠せない部分がありました。日本での生活が長いとどうしても自国の文化が正しいと無意識に思っていました。しかし、時が経つにつれ、どの文化にも良い面とそうでない面があり、どの文化も正解という考え方を持つようになりました。相手の欠点に目を向けるのではなく、長所に目を向けそれを自分たちに生かしていくことがこれからの社会に必要なのだと改めて実感したように思います。

また「コミュニケーションの大切さ」も学びました。日本は言葉で全て伝えずに、その場の空気でも多くのことを読みとらなければならないことがあると思います。しかし、海外で同じような方法を取ると、相手に自分の意図が伝わらないことがよく起こります。相手に伝わらないのは自分自身の責任です。言葉を選ぶことはもちろん必要ですが、相手に自分の考えや思いをしっかりと伝えることが、日本だけでなく世界中で円滑にコミュニケーションを図る上で大切な要素の1つだと思っています。

もちろん、これらは日本にいるうちに気づくのがベストですが、私自身が人としてまだまだ未熟であったために、日本ではなかなかそうすることができずに苦しんだこともありました。毎年思いますが、教員は「教える」仕事をしていながら、毎回相手から大変多くを「教わる」ことが多い仕事です。ブラジルでは任地の方々を始め大変多くの方々に良く接していただきました。これからまた日本でこの経験を少しでも活かしていければという思いです。

◆ 豆まき 2月2日(金)

金曜日の授業は基本的に活動日となっています。この日には在籍している生徒が全員参加し、季節に合わせた日本の文化を紹介しています。今回は節分として子どもたちと豆まきをしました。まず、子どもたちに節分と豆まきをする理由について説明しました。説明には自作のプリントを使い、ポルトガル語で説明する部分は日本の教え子に協力を依頼しました。その後は、YouTube で豆まきの様子を見せ、鬼のお面の作成、豆を入れる箱の作成、豆まきという流れで進めました。



豆にはブラジルの家庭料理でよく利用するフェイスョンを使用しました。鬼役は子どもたちにじゃんけんで決めてもらい、全員が鬼役と豆まき役を体験しました。

毎回活動を企画するたびに、楽しんでくれるかどうか不安でいっぱいになるのですが、今回はいつも以上に一生懸命に活動を楽しんでいたように見えました。豆まきを通して福がたくさんやって来て欲しいですね。

◆ ピンポン大会 2月17日(土)

第2アリアンサでピンポン大会が開催されました。この日に向けて第3アリアンサ校では1ヶ月前から授業の中で練習をしてきました。みんなこのピンポンの時間が大好きで、毎回一生懸命に練習をしていました。中には家に卓球台を持っている子もいて、自宅でも練習をしていたそうです。



大会当日は年齢別に分れてリーグ戦をおこない、その後決勝トーナメントをおこないました。第3アリアンサからは3名のみのお出場となりましたが、全員が決勝トーナメントに進み、その内2名が3位以上の成績を残しました。これまでの努力が結果に繋がり、とても嬉しかったと思います。来年は今年以上の結果が出るように日本から応援しています。

